

平成15年5月2日
気象庁 気候・海洋気象部

配信資料に関する技術情報（気象編）第132号

—平成15年9月からの暖候期・寒候期予報電文形式の変更について—

気象庁では、暖候期・寒候期予報に関する予測資料の改善を進めており、当該改善を反映するため、平成15年9月から電文形式を下記のとおり変更する予定です。対象となる季節予報は暖候期・寒候期予報（全般暖候期予報・寒候期予報、地方暖候期予報・寒候期予報）のみで、1か月予報や3か月予報の電文形式には変更ありません。

記

1. 変更の実施予定日

平成15年9月25日頃（日付は決まり次第お知らせします）

2. 暖候期・寒候期予報電文の主な変更点

新しい予報電文形式では、はじめに一般的・概要的な情報を平文で分かりやすく記述し、その後に、より詳細な確率情報を配置しています。新たに設ける事項および今回廃止する事項は次のとおりです。

- ・ <予想される夏（6月から8月）の天候>および<予想される冬（12月から2月）の天候>を設け、夏（6月から8月）もしくは冬（12月から2月）の気温・降水量・降雪量予報等の概要、および天気日数の特徴（“平年に比べて雨の降る日が多い”等）について、平文で記述します。
- ・ <確率>では、現在確率表現で予報している夏もしくは冬の平均気温に加えて、現在は階級表現（「少ない」・「平年並」・「多い」）で予報している夏もしくは冬の降水量、梅雨の時期（6～7月、南西諸島は5～6月）の降水量および冬の降雪量（日本海側の地域のみ）を、各階級の確率表現で予報します。
- ・ <概要>及び<可能性の大きな天候見通し>は廃止します。

なお、新しい電文形式の詳細は別紙を参照願います。

暖候期・寒候期予報の電文形式について

1. 暖候期・寒候期予報のデータ種類コード

全般暖候期・寒候期予報および地方暖候期・寒候期予報の通報に用いるデータ種類コードは、それぞれ「キツヨウ1」および「フキキツヨウ1」とする。

2バイトコード文字の電文（仮名漢字電文）を用いて通報する。

2. 電文で使用する文字

電文において、本文ではすべて2バイトコード文字を用いる。本文以外は、1バイトコード文字を用いる。

以下において、「▽」と記されたところでは必ず1回以上の改行を行い、「□」と記されたところでは必ず1つ以上の空白を含める。また、記述することが指定された単語では、その途中で改行・空白等の文字を挿入しない。

3. 暖候期・寒候期予報本文の通報形式

全般暖候期・寒候期予報本文と地方暖候期・寒候期予報本文は、同じ通報形式とする。暖候期・寒候期予報本文の通報形式は次の事項で構成する。

(1)	標題行	予報の種類を示す
(2)	予報期間行	予報期間を示す
(3)	発表年月日行	予報発表日を年月日で示す。年は元号を用いて示す
(4)	発表官署行	発表官署を示す
(5)	天候の概要行	予報期間の天候の概要について平文で示す
(6)	確率行	予報期間の確率予報を示す
(7)	次回発表予定行	次回の季節予報発表日等について平文で示す

4. 暖候期・寒候期予報本文の構成

各行の取り扱いは次のとおりとする。

(1) 標題行

「予報区名□予報の種類▽」とする。

予報区名には別表中の「地方予報区名」のいずれかを用い、「予報区」という言葉は省略する。ただし、九州北部地方予報区の予報区名は「九州北部地方（山口県を含む）」とする。また、全般暖候期・寒候期予報の予報区名は「全般」とする。

予報の種類は、「暖候期予報」もしくは「寒候期予報」とする。

【例】北海道地方□寒候期予報▽

(2) 予報期間行

「予報期間□」に続けて予報対象となる期間を月単位で示し改行する。

【例】予報期間□1 2月から2月▽

(3) 発表年月日行

「発表年月日▽」とする。年は元号を用いて示す。

【例】平成17年9月××日▽

(4) 発表官署行

「発表官署□発表▽」とする。発表官署には予報区名に対応する別表中の「担当官署」のいずれかを用いる。ただし、気象庁本庁が発表する予報（全般暖候期・寒候期予報および関東甲信地方暖候期・寒候期予報）では、発表官署を「気象庁□気候・海洋気象部」とする。

【例】札幌管区気象台□発表▽

(5) 天候の概要行

暖候期予報では「<予想される夏（6月から8月）の天候>▽」、寒候期予報では「<予想される冬（12月から2月）の天候>▽」とし、それぞれの期間に予想される天候を平文で記述して改行する。

【例】

<予想される冬（12月から2月）の天候>▽

冬（12月から2月）の可能性の大きな天候は以下のとおりです。▽

日本海側では平年に比べて曇りや雪の日が多いでしょう。オホーツク海側▽と太平洋側では晴れる日が多いでしょう。▽

この期間の平均気温は低いでしょう。降水量は日本海側で多く、オホーツク海側と太平洋側では平年並か少ない見込みです。日本海側の降雪量が多い▽でしょう。▽

(6) 確率行

「<確率>▽」とし、次に「期間□要素□地域□低・少□平年並□高・多%▽」と記述し、以下の順で予想される各階級の確率を示す。

期間□要素名□予報地域名□低い（少ない）確率□平年並の確率□高い（多い）確率▽

期間は「5～6月」「6～7月」「6～8月」「12～2月」のいずれかを用い、要素名は「気温」・「降水量」・「日照時間」・「降雪量」のいずれかを用いる。予報地域名は別表中の「予報対象地域名」のいずれかを用いる。また、各階級の確率の表現は%単位とし、順に低い（少ない）確率、平年並の確率、高い（多い）確率を記す。

なお、当分の間は確率表現の日照時間を予報しないため、要素名の「日照時間」は利用しない。確率表現の日照時間の予報を開始し、要素名「日照時間」を使用する

際には、別途、技術情報により周知する。

【例】

<確率>▽

期間□	要素□	地域□	低・少□	平年並□	高・多%▽
12～2月□	気温□	北海道地方□	50□	30□	20▽
12～2月□	降水量□	北海道日本海側□	20□	30□	50▽
12～2月□	降水量□	北海道オホーツク海側□	40□	40□	20▽
12～2月□	降水量□	北海道太平洋側□	40□	40□	20▽
12～2月□	降雪量□	北海道日本海側□	20□	30□	50▽

(7) 次回発表予定行

「<次回発表予定等>▽」とし、続いて次回の季節予報発表日等を平文で記述して改行する。

【例】

<次回発表予定等>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分発表 次回は××月××日▽

3か月予報：10月××日（×曜日） 14時▽

<< 別表 >>

(1) 地方季節予報電文で用いる地方予報区名・予報対象地域名、
および予報対象地域に含まれる府県予報区（細分区）

地方予報区名 (担当官署)	予報対象地域名	予報対象地域に含まれる 府県予報区（細分区）
北海道地方予報区 (札幌管区气象台)	北海道地方	北海道
	北海道日本海側	宗谷地方（宗谷北部）、上川地方、 留萌地方、石狩地方、後志地方、空 知地方、檜山地方
	北海道オホーツク 海側	宗谷地方（宗谷南部）、網走地方、 北見地方、紋別地方
	北海道太平洋側	渡島地方、胆振地方、日高地方、十 勝地方、釧路地方、根室地方
東北地方予報区 (仙台管区气象台)	東北地方	青森県、秋田県、岩手県、山形県、 宮城県、福島県
	東北日本海側	青森県（津軽）、秋田県、山形県、 福島県（会津）
	東北太平洋側	青森県（下北、三八上北）、岩手県 、宮城県、福島県（中通り、浜通り ）
	東北北部 東北南部	青森県、秋田県、岩手県 山形県、宮城県、福島県
関東甲信地方予報区 (気象庁本庁)	関東甲信地方	栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、 千葉県、東京都、神奈川県、長野県 、山梨県
東海地方予報区 (名古屋地方气象台)	東海地方	静岡県、岐阜県、三重県、愛知県
北陸地方予報区 (新潟地方气象台)	北陸地方	新潟県、富山県、石川県、福井県
近畿地方予報区 (大阪管区气象台)	近畿地方	京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、 滋賀県、和歌山県
	近畿日本海側	京都府（北部）、兵庫県（北部）、滋 賀県（北部）
	近畿太平洋側	京都府（南部）、兵庫県（南部）、滋 賀県（南部）、奈良県、和歌山県、 大阪府
中国地方予報区 (広島地方气象台)	中国地方	岡山県、広島県、鳥取県、島根県
	山陽	岡山県、広島県
	山陰	鳥取県、島根県
四国地方予報区	四国地方	香川県、愛媛県、徳島県、高知県

(高松地方气象台)		
九州北部地方予報区 (福岡管区气象台)	九州北部地方 (山口県を含む)	山口県、福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県
九州南部地方予報区 (鹿児島地方气象台)	九州南部地方	宮崎県、鹿児島県
	九州南部	宮崎県、鹿児島県 (薩摩地方、大隅地方、種子島・屋久島地方)
	奄美地方	鹿児島県 (奄美地方)
沖縄地方予報区 (沖縄气象台)	沖縄地方	沖縄本島地方、大東島地方、宮古島地方、八重山地方

注：予報対象地域に含まれる府県予報区（細分区）は、北海道地方予報区については一次細分区名（括弧内は二次細分区名）で表示し、他の地方予報区については府県予報区名（括弧内は一次細分区名）で表示している。

(2) 全般季節予報電文で用いる予報対象地域名と予報対象地域に含まれる地域

予報対象地域名	予報対象地域に含まれる地域
北日本* ¹	北海道地方、東北地方
北日本日本海側	北海道日本海側、北海道オホーツク海側の一部（宗谷南部）、東北日本海側
北日本太平洋側	北海道太平洋側、北海道オホーツク海側の一部（網走地方、北見地方、紋別地方）、東北太平洋側
東日本	関東甲信地方、北陸地方、東海地方
東日本日本海側	北陸地方
東日本太平洋側	関東甲信地方、東海地方
西日本* ²	近畿地方、中国地方、四国地方、九州北部地方、九州南部
西日本日本海側 *	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
西日本太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国地方、九州南部
南西諸島	奄美地方、沖縄地方

*¹：梅雨の時期の降水量予報においては、「東北地方」とし、「北海道地方」は含まない。

*²：降雪量予報においては「近畿日本海側、山陰」とし、「九州北部地方」は含まない。

電文例 1 地方寒候期予報

北海道地方□寒候期予報▽

予報期間□12月から2月▽

平成××年9月××日▽

札幌管区气象台□発表▽

<予想される冬(12月から2月)の天候>▽

冬(12月から2月)の可能性の大きな天候は以下のとおりです。▽

日本海側では平年に比べて曇りや雪の日が多いでしょう。オホーツク海側▽
と太平洋側では晴れる日が多いでしょう。▽

この期間の平均気温は低いでしょう。降水量は日本海側で多く、オホーツク海側と太平洋側では平年並か少ない見込みです。日本海側の降雪量が多い▽
でしょう。▽

<確率>▽

期間□	要素□	地域□	低・少□	平年並□	高・多%▽
12～2月□	気温□	北海道地方□	50□	30□	20▽
12～2月□	降水量□	北海道日本海側□	20□	30□	50▽
12～2月□	降水量□	北海道オホーツク海側□	40□	40□	20▽
12～2月□	降水量□	北海道太平洋側□	40□	40□	20▽
12～2月□	降雪量□	北海道日本海側□	20□	30□	50▽

<次回発表予定等>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分発表 次回は××月××日▽

3か月予報：10月××日(×曜日) 14時▽

電文例2 全般寒候期予報

全般□寒候期予報▽

予報期間□12月から2月▽

平成××年9月××日▽

気象庁□気候・海洋気象部□発表▽

<予想される冬(12月から2月)の天候>▽

冬(12月から2月)の可能性の大きな天候は以下のとおりです。▽

日本海側では平年と比べて曇りや雨または雪の日が多いでしょう。太平洋側では平年と同様に晴れる日が多いでしょう。南西諸島では平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。▽

この期間の平均気温は、北日本では低く、東日本と西日本では平年並か低く、南西諸島では平年並でしょう。降水量は日本海側で多く、太平洋側では少なく、南西諸島では平年並でしょう。日本海側の降雪量が多いでしょう。▽

<確率>▽

期間□	要素□	地域□	低・少□平年並□高・多%▽
12～2月□	気温□	北日本□	50□30□20▽
12～2月□	気温□	東日本□	40□40□20▽
12～2月□	気温□	西日本□	40□40□20▽
12～2月□	気温□	南西諸島□	20□50□30▽
12～2月□	降水量□	北日本日本海側□	20□30□50▽
12～2月□	降水量□	北日本太平洋側□	50□30□20▽
12～2月□	降水量□	東日本日本海側□	20□30□50▽
12～2月□	降水量□	東日本太平洋側□	50□30□20▽
12～2月□	降水量□	西日本日本海側□	20□30□50▽
12～2月□	降水量□	西日本太平洋側□	50□30□20▽
12～2月□	降水量□	南西諸島□	30□50□20▽
12～2月□	降雪量□	北日本日本海側□	20□30□50▽
12～2月□	降雪量□	東日本日本海側□	20□30□50▽
12～2月□	降雪量□	西日本日本海側□	20□30□50▽

<次回発表予定等>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分発表 次回は××月××日▽

3か月予報：10月××日(×曜日) 14時▽

電文例3 地方暖候期予報

九州北部地方（山口県を含む）暖候期予報▽

予報期間6月から8月▽

平成××年2月××日▽

福岡管区气象台発表▽

<予想される夏（6月から8月）の天候>▽

夏（6月から8月）の可能性の大きな天候は以下のとおりです。▽

6月から7月は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。その後は平年▽と同様に晴れの日が多い見込みですが、曇りや雷雨となる時期があるでしょう。▽

この期間の平均気温は平年並で、降水量は少ないでしょう。梅雨の時期（▽6月から7月）の降水量は平年並でしょう。▽

<確率>▽

期間 要素 地域 低・少平年並高・多%▽

6～8月 気温 九州北部地方（山口県を含む）205030▽

6～8月 降水量 九州北部地方（山口県を含む）503020▽

6～7月 降水量 九州北部地方（山口県を含む）305020▽

<次回発表予定等>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分発表 次回は××月××日▽

3か月予報：3月××日（×曜日） 14時▽

電文例 4 地方暖候期予報

沖縄地方□暖候期予報▽
予報期間□6月から8月▽
平成××年2月××日▽
沖縄气象台□発表▽

<予想される夏（6月から8月）の天候>▽

夏（6月から8月）の可能性の大きな天候は以下のとおりです。▽

6月は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。その後は平年と同様に▽
晴れの日が多い見込みですが、曇りや雷雨となる時期があるでしょう。▽

この期間の平均気温は平年並で、降水量は少ないでしょう。梅雨の時期（▽
5月から6月）の降水量は平年並でしょう。▽

<確率>▽

期間□	要素□	地域□	低・少□平年並□高・多%▽
6～8月□	気温□	沖縄地方□	20□50□30▽
6～8月□	降水量□	沖縄地方□	30□50□20▽
5～6月□	降水量□	沖縄地方□	30□50□20▽

<次回発表予定等>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分発表 次回は××月××日▽

3か月予報：3月××日（×曜日） 14時▽

電文例 5 全般暖候期予報

全般□暖候期予報▽
 予報期間□6月から8月▽
 平成××年2月××日▽
 気象庁□気候・海洋気象部□発表▽

<予想される夏（6月から8月）の天候>▽

夏（6月から8月）の可能性の大きな天候は以下のとおりです。▽

6月から7月は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。その後は平年▽と同様に晴れの日が多い見込みですが、曇りや雷雨となる時期があるでしょう。▽

この期間の平均気温は、全国的に平年並でしょう。降水量は北日本では多▽く、東日本と西日本では平年並か少なく、南西諸島では平年並でしょう。梅▽雨の時期（6月から7月、南西諸島は5月から6月）の降水量は北日本で多▽く、その他の地方では平年並の見込みです。▽

<確率>▽

期間□	要素□	地域□	低・少□平年並□高・多%▽
6～8月□	気温□	北日本□	30□50□20▽
6～8月□	気温□	東日本□	20□50□30▽
6～8月□	気温□	西日本□	20□50□30▽
6～8月□	気温□	南西諸島□	20□50□30▽
6～8月□	降水量□	北日本日本海側□	20□30□50▽
6～8月□	降水量□	北日本太平洋側□	20□30□50▽
6～8月□	降水量□	東日本日本海側□	40□40□20▽
6～8月□	降水量□	東日本太平洋側□	40□40□20▽
6～8月□	降水量□	西日本日本海側□	40□40□20▽
6～8月□	降水量□	西日本太平洋側□	40□40□20▽
6～8月□	降水量□	南西諸島□	30□50□20▽
6～7月□	降水量□	北日本日本海側□	20□30□50▽
6～7月□	降水量□	北日本太平洋側□	20□30□50▽
6～7月□	降水量□	東日本日本海側□	30□50□20▽
6～7月□	降水量□	東日本太平洋側□	30□50□20▽
6～7月□	降水量□	西日本日本海側□	30□50□20▽
6～7月□	降水量□	西日本太平洋側□	30□50□20▽
5～6月□	降水量□	南西諸島□	30□50□20▽

<次回発表予定等>▽

1か月予報：毎週金曜日 14時30分発表 次回は××月××日▽

3か月予報：3月××日（×曜日） 14時▽